



猛禽類 適度な距離感がいい



スザッチ

飼育員 日誌

長野・須坂市動物園

ノスリの「^{ぶどう}葡萄」(性別・年齢不明)は須坂市内でケガをしているところを保護されました。飼育

していれば飼育員に慣れるかと思いきや、担当飼育員のことは嫌いです。なぜなら、毎日獣舎に入ってきて掃除をしたり、時には捕獲されて伸びすぎた爪やくちばしを整えられるからです。

実は葡萄が餌を食べている瞬間は数回しか見たことがありません。お客さんの前では食べているようですが、飼育員には無防備になる食事シーンを見られたくないようです。

飼育員は他の^{もうきん}猛禽類からも嫌われています。イヌワシには飛びかかられそうになり、トビには餌を渡した途端にあっちへ行け！ と鳴かれ、シロフクロウには近づけばシャー！ と怒られ、ハヤブサは飼育員に見られるのも嫌がります。

毎日世話をしているからといって好かれるわけではありません。嫌われても動物が毎日健康で元気に過ごし、適度な距離感で接することができれば、それがいちばん良いのです。

(ノスリ担当 笹島優里華)